

平成31年2月12日発行

＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝

東海生研 ～メールマガジン 第170号～
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝

**** 《もくじ》 ****

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
 - ☆平成30年度 食品安全セミナー (2月) (2月13日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 3. 競争的研究資金について
 - ☆平成31年度 イノベーション創出強化研究推進事業 (農林水産省)
 - ☆平成31年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省)
 - ☆平成31年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省)
 - ☆地域内エコシステム技術開発・実証 (木材需要の創出・輸出力強化対策 (地域内エコシステム構築事業)内) (林野庁)
 - ☆木材需要の創出・輸出力強化対策 (地域内エコシステム構築事業 (木材のマテリアル利用技術開発事業)) (林野庁)
 - ☆スマート林業構築実践事業 (森林作業システム高度化対策) (林野庁)
 - ☆平成31年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)
 - ☆平成31年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
 - ☆平成31年度 研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (NEDO)
 - ☆平成31年度新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業 (NEDO)
 - ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
 - 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ
 - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)
 - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
 - ☆e-ASIA 共同研究プログラム 平成31年度材料 (ナノテクノロジー) 及び「農業 (食料)」分野 共同研究課題募集 (JST)
 - ☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
 - ☆民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について

◆ 1 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(2月)」

【開催日時】平成31年2月13日 (水) 13時30分～16時
 【場所】東海農政局1階第1会議室 (名古屋市中区三の丸1-2-2)
 【主催】東海農政局
 第一部 13:30～14:05

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 消費生活課職員

第二部 14:20～15:50

「食品添加物について」

講師：名古屋市 食品衛生検査所職員

【開催案内】

<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/attach/pdf/index-23.pdf>

【参加】参加費無料、定員先着40名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記「開催案内」裏面の参加申込書にご記入の上、FAX又はインターネット、又は電話でお申込み下さい(申込期限：1月12日)。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様
代表：052-201-7271(内線2810)ダイヤルイン：052-223-4651
FAX：052-220-1362
会場案内図は、上記の「開催案内」をご覧ください。

.....

☆平成30年度「食品安全セミナー(3月)」

【開催日時】平成31年3月13日(水)13時30分～16時

【場所】東海農政局1階第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 消費生活課職員

第二部 「野草や山菜などの自然毒について」

講師：岐阜県保健環境研究所職員

◆2◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

☆平成30年度 農林水産省 高度先端型技術実装促進事業シンポジウム
～農業における先端技術活用の加速化を目指して～

このシンポジウムでは、農業における先端技術活用の有効性や課題を多面的に捉え、その加速化に向けたこれからの展望について論議を深めます。

【開催日時】平成31年3月8日(金)13:00～16:40

【開催場所】日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール(地下1F)

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

【プログラム】

第一部 講演：異なる視点で捉える先端技術活用の現状と展望

- 1) 「先端技術メーカーの視点で／先端技術の活用で強い農業を実現する」
横山 恵一 氏 (株式会社オプティム 執行役員)
- 2) 「先端技術利用者の立場から／先端技術の効用と課題」
山崎 能央 氏 (農業法人株式会社ヤマザキライス 代表取締役)
- 3) 「オランダ農業に照らして／オランダの生産者が先端技術を導入する理由」
紀平 真理子 氏 (maru communicate 代表)
- 4) 「農業コンサルタントとして／コンサルティングで農業を強くする」
麻生 英文 氏 (株式会社 Delphy Japan シニアコンサルタント)

第二部 補助事業発表：高度先端型技術の実装促進取組状況

- 1) 「スマート農業時代における経営分析クラウドの実証活動と展開」
生駒 祐一 氏 (テラスマイル株式会社 代表取締役)
- 2) 「スマート農業時代における養豚経営支援システムの実証活動と展開」
神林 隆 氏 (株式会社 Eco-Pork 代表取締役)

第三部 総合討論：「農業における先端技術の活用を加速するための課題と方向性」

ファシリテーター 三原 洋一 氏 (NKアグリ株式会社 代表取締役社長)

【参加費】 無 料

【申込方法】 事務局 (JATAFF) の HP からお申し込みください。

<https://www.jataff.jp/event/smart.html>

申込締切：平成 31 年 3 月 5 日 (火)

【事務局】 公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会 (JATAFF)

産学連携事業部 石脇 尚武

〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目 9-13 三会堂ビル 7F

メールアドレス / n-ishiwaki@jataff.jp

TEL / 03-3586-8644 FAX / 03-3586-8277

<http://www.jataff.jp/>

【関連イベント】 前日 3 月 7 日 (木) に同じ会場にて

「JAISA スマートアグリ・シンポジウム 2019 in 東京」開催

https://jaisa.org/smartagri_symposium_2019_tokyo/

◆ 3 ◆平成 30～31 年度競争的研究資金等について

☆平成 31 年度イノベーション創出強化研究推進事業(農研機構・生研支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/innovation/news/2018/120984.html>

分野等：従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出に向け、「知」の集積と活用の場による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業「イノベーション創出強化研究推進事業」を推進することとし、公募により研究を委託する。

予算額：4,080(4,132)百万円 (継続分を含む)

公募開始：平成 31 年 1 月 15 日 (火)

公募締切：平成 31 年 2 月 15 日 (金)

☆平成 31 年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省 (技術会議事務局))

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/190122_12.html

分野等：

1. 現場ニーズ対応型研究

- 1) 直播栽培拡大のための雑草イネ等難防除雑草の省力的防除技術の開発
- 2) 南西諸島の気候風土に適した高収益品目の検討及び栽培技術体系の確立

- 3) 畑作物生産の安定・省力化に向けた湿害、雑草害対策技術の開発
- 4) 高品質茶生産拡大のための適期被覆技術体系の確立
- 5) 繋ぎ牛舎でも利用できる高度な搾乳システムの開発
- 6) 国内主要養殖魚の重要疾病のリスク管理技術の開発
- 7) 森林・林業、水産業分野における気候変動適応技術の開発（流木災害防止・被害軽減技術の開発）
- 8) 野生鳥獣及び病害虫等被害対応技術の開発（農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発）

2. 基礎的・先導的研究

- 1) ゲノム編集技術を活用した農作物品種・育種素材の開発

公募期間：2019年1月22日～3月13日

☆平成31年度官民連携新技術研究開発事業（農林水産省（農村振興局））

http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190201_6.html

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：2019年2月1日～3月29日

☆地域内エコシステム技術開発・実証（木材需要の創出・輸出力強化対策

（地域内エコシステム構築事業）内）

（林野庁）

http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo_1/31mhc0108.html

分野等：地域の森林資源の持続的な活用を図る「地域内エコシステム」の構築に資する木質バイオマスのエネルギー利用システム（小規模な熱利用や熱電併給等）の普及に必要なとなる小規模な技術開発・改良、実証等を行う。

公募期間：平成31年2月4日～3月1日

☆木材需要の創出・輸出力強化対策（地域内エコシステム構築事業

（木材のマテリアル利用技術開発事業））

（林野庁）

http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo_1/31mhc0109.html

分野等：

1. 新素材製造・利用技術開発
2. 竹のマテリアル利用に向けた効率的な竹材生産技術の開発

公募期間：平成31年2月4日～3月1日

☆スマート林業構築実践事業（森林作業システム高度化対策）

（林野庁）

http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo_1/31mhc0119.html

分野等：地理空間情報やICT等の先端技術を積極的に導入し、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた木材生産や木質バイオマスの収集・運搬等を可能とする新たな林業（スマート林業）の実現に向けた林業機械の開発・改良によるその実用化に向けた取組を支援する。

公募期間：平成31年2月4日～3月1日

.....
☆平成 31 年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiki/program/1412482.htm

分野等：コア技術等を有する地域において、コア技術等の性質等を踏まえて、事業化を支える人材及びそのチームを設置し、様々な外部環境・内部環境分析を踏まえて事業化戦略・計画を策定し、関係者が一丸となって各プロジェクトを遂行し、当該プロジェクトの出口としてマイルストーンに基づく次のフェーズの資金（又は売上）の獲得等を目指す取組を支援する。

公募期間：平成 31 年 1 月 11 日～3 月 22 日

.....
☆平成 31 年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2019/190128mono.htm>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：平成 31 年 1 月 28 日～4 月 24 日

.....
☆平成 31 年度 研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (NEDO)

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100199.html

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等と NEDO が協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成 31 年 1 月 25 日～2 月 25 日

.....
☆平成 31 年度新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業(NEDO)

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100194.html

分野等：

1. 太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。
2. 再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術（燃料電池、蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等）。

公募期間：平成 31 年 2 月 4 日～3 月 5 日

.....
☆平成 30 年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切

.....
☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)

(総務省)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発を行う。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

☆「e-ASIA 共同研究プログラム平成 31 年度「材料 (ナノテクノロジー)」及び「農業 (食料)」分野」共同研究課題募集 (JST)

http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_easia_jrp_8th.html

分野等：

1. 材料 (ナノテクノロジー) 分野：革新的材料
2. 農業 (食料) 分野：アジアの動物遺伝資源の保存、改良と活用

公募期間：平成 31 年 1 月 18 日～5 月 14 日

< 民間の競争的研究資金 >

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆「アグリーサーチャー」に対話型検索システムが試験導入されました！

「アグリーサーチャー」は、農林水産省が設けた最新の研究成果と研究者の連絡先を簡単に検索できる情報公開 (Web) システムです (下記の URL)。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

「アグリーサーチャー」の利便性を一層向上させ、利用拡大を図るために、平成 31 年 1 月 17 日からロボットとの対話形式による検索システム (チャットボット) の試験導入が開始されました。この試行には「line」登録が必要です。本格運用は 4 月に予定されています。

<http://www.affrc.maff.go.jp/agresearcher/news/310116chatbott-HP.pdf>

・農林水産省 HP:アグリーサーチャー・チャットボットの概要 (使い方)

http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/20190111lag_chatbott_howtouse.pdf

☆米関係

○三重県における飼料用（知事特認）品種「あきだわら」の多収栽培法

飼料用米は、主食米の生産調整のための補助金が打ち切られたことに伴い、需給を安定化させる施策として導入されましたが、畜産農家にとっては、飼料米はトウモロコシの代替え飼料として、栄養価と価格に遜色が無く比較的価格が安定した地元産飼料として歓迎されています。従来、輸入飼料として地域外から購入していたものを地域内から購入できれば資金が地域内で循環することにもなります。

三重県において飼料用多収品種として知事特認を受けている品種「あきだわら」は、まだ県内における作付実績が乏しく、多収を実現するための知見も乏しいようです。そこで、三重県農業研究所は、「あきだわら」の多収栽培法について、今回は特に施肥技術を中心に開発しました。

- ・三重県農業研究所 HP:平成 28 年度三重農研・成果情報（詳細版）
<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000768432.pdf>
- ・農林水産省 HP:飼料用米関連情報
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/siryouqa.html>

☆野菜関係

○アオジソ新品種「愛経 3 号」を開発

愛知県農業総合試験場は愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で、アオジソの新品種「愛経 3 号」を開発しました。愛知県は全国一のアオジソの生産県となっています。現在栽培されている品種・系統は、低温期に葉が波打ったり、葉裏が赤色に着色しやすい点が問題となっています。今回開発した新品種「愛経 3 号」は、波打ちが少ないため出荷調整が容易であり、着色が少なく品質が向上し、従来品種に比べ、収量が 1 割増加するとともに、重要病害であるシソ斑点病に抵抗性を持つことが特長となっています。（記者発表内容を掲載）

- ・愛知県農業総合試験場 HP:2018 年十大研究成果～アオジソ新品種「愛経 3 号」を開発（詳しい内容）
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/284082.pdf>

☆果物関係

○微細孔フィルムを段ボール箱の内袋とすることで春節に「富有」をタイへ輸出できます

農林水産物・食品の輸出促進は、「攻めの農林水産業」の中で重要な位置を占めています。カキの輸出については、植物検疫及び残留農薬の問題をクリアしたうえで、鮮度保持技術が重要課題となっています。カキの輸出について、和歌山県からの東南アジア向けの輸出実績が最も多くなっています。米国、豪州へも輸出が解禁される状況にあり、長距離輸送に耐えられる鮮度保持技術の向上が求められています。

カキの算出額が多い岐阜県の農業技術センターは、「富有」を春節に香港に輸出するための長期貯蔵技術を開発するとともに、輸出後の品質管理方法を検討するため、在庫後の日持ち性と温度の関係を調査し、最適な品質管理方法を明らかにしました。

- ・岐阜県農業技術センターHP:研究成果（2018 年度）
http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/kenkyuseika/seika_h28-2.pdf

.....

編集後記

去る1月29日、30日に開催しました「アグリビジネス創出フェア in 東海」では大変多くの方々のご来場をいただきありがとうございました。改めてお礼申し上げます。立春を過ぎましたが、いよいよ寒さが増してきました。体調はいかがでしょう。インフルエンザが大変流行しているようですので、ぜひ体調の管理にお気を付けください。

さて、人口減社会の消費と行動について述べられている、三浦 展（あつし）著「中高年シングルが日本を動かす」（朝日新書：2017年11月30日第1刷発行）を読みました。著者はマーケティングアナリストで、消費社会・社会デザイン研究者として時代を予測し、大手企業への助言をされています。

中高年を50歳以上とすると、その数が2030年には6259万人にもなると推定しており、日本は超高齢社会だけではなく、超中高年社会になっている。しかもこの中高年の中で未婚や死別、離婚の人口が増えている。中高年の単身世帯が増え続ける日本で、その単身世帯の消費や支出動向をみることは、企業の商品開発に欠かせないばかりでなく、ライフスタイルの変化や社会全体の仕組みが変化していく中での新しい暮らし方を知ることが出来ると著者は分析しています。

これからの日本で中高年シングルが増えることは、たとえシングルではなく、誰かと同居していても、自分のことは自分でケアしなくてはならない「セルフケア社会」であり、どうやら元気なうちはずっと働き続けられないといけない時代になってきていると分析しています。だからこそ、健康がますます重要になり、病気やケガを予防することが重要視されるだろうとしています。また、それぞれの人々にそれぞれの幸福があるように、幸福のイメージも多様化してきていると見ています。ライフスタイルの多様化であり、幸福の多様化の時代なのだと述べています。

幸福のイメージの多様化、ライフスタイルの多様化の記述で、ふと思い出したことがあります。本書の中で「男性シニア（60歳以上）の分析」について述べられていますが、子供の頃にアメリカ風の食べ物を時々食べたことで幸福を味わったことを覚えています。そして、シニアの今でもハンバーグなどを食べた時に、とても幸福を感じることを思い出しました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2*y4.dion.ne.jp（*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>